

にすること。」とある。

この趣旨にしたがって、全日制普通科 58 校の中で 34 校 ( 58.6 % ) において、類型 ( コース ) を設定しているが、その種類は、大きく分けて、文科コース、理科コース、中間 ( 一般 ) コースになる。文科コース、理科コースは進学希望者のために設けられ、中間 ( 一般 ) コースは、卒業後直ちに社会に出る生徒たちのために設けられた一般教養コースであり、いわゆる就職コースといえることができる。

学校によって、文科 ; 理科の 2 コース、文科・理科・中間の 3 コース、あるいは進学・中間の 2 コースのいずれかを設定している。

さらに、類型を設ける時期は、2 年次からの場合と、3 年次においてのみ設ける場合がある。1 年次から類型を設ける学校はない。

2 年次から類型を設ける学校	13
文科・理科の 2 コース	4
文科・理科・中間の 3 コース	4
進学・中間の 2 コース	5
3 年次に類型を設ける学校	21
文科・理科の 2 コース	12
文科・理科・中間の 3 コース	6
進学・中間の 2 コース	3

次に、選択科目は 11 校で設けられ、類型設定校と合せて、45 校となり、普通科高校の 77.6 % が、生徒の能力・適性・進路に応じた教育課程の弾力的な編成に努力している。

2 年次から選択科目を設ける学校	3
3 年次に選択科目を設ける学校	8

選択科目にあてられる単位数は、2 年次で、4 ~ 6 単位、3 年次で、4 ~ 12 単位である。3 年次の選択には、大学受験に必要な科目ととれるよう配慮されている。

#### (4) 各教科以外の教育活動

ホールルーム及びクラブ活動は、学習指導要領に示された通り、それぞれ、週 1 時間実施されている。

クラブ活動は、学年のわくをはずして、全校いっせいに展開することができない学校もある。

学校行事の時数は、平均して 75 ~ 70 時間であり、生徒会活動にあてる時間は 31 時間である。年間を通して、ほぼ 100 時間を学校行事と生徒会活動にあてている。

部活動は、すべての学校で実施され、特に、運動部関係に参加する生徒数は、31% に達している。放課後における部活動には、学校の方針によって、時間の制約を設けている場合もある。

## 2 教育課程実施上の諸問題

昭和 48 年度から、学年進行によって、改正学習指導要領を基準として、教育課程が編成実施され、本年度をもって、完成年度を迎えたのであるが、3 年間の実施状況を省みて、問題点を取り上げてみたい。

### (1) 目 標

学校教育にかぎらず、目標を定めた人間活動のすべてにおいて、たえず目標への到達状況を確認しながら、能率的に、効果的に活動を継続するのは当然のことである。

教育活動については、この能率、効果の点で、ややもすれば、あいまいなところがあり、また、それがあたりまえであるかのように、当事者である教師たちはもちろんのことながら、世間一般にも受け入れられてきた感がある。

最近の、教育工学的発想や、行動心理学を基礎とした学習指導の理論からすれば、教育活動においても、目標を明確にし、たえず、教授学習の状況が、目標達成のために、効率をあげているかどうかを確認することが要求される。

すでに述べたように、本県における普通科高等学